

○ 本校の概要

<p>平成28年度 東京都教育委員会言語能力向上拠点校</p> <p>研究主題「国際社会で輝いて生きる子どもの育成」 ～言語活動を大切に生活科・総合的な学習の時間を通して～</p>

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	3	4: 保護者による授業評価において「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」とアンケートで回答した割合が90%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ・音読、道塚五七五、視写、百人一首などの言語活動を実践した。 ・地域の図書館との連携を図り、学習関連図書やオリハラ関連図書を用意して、図書館の環境を整えた。 ・算数のベーシックドリルやステップアップドリルを学習で必ず取り組んだ。 ・研究の成果を生かし、今後も国語を中心に全教科で言語能力の育成に関わる取り組みを行っていく。 ・授業改善推進プランを基に授業を実施するとともに、授業を見合う機会を設けて指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の言語能力向上の実践的な研究発表の成果が学力にも反映して、国語教育等の学力の向上が見られたが、より一層の向上、これからの児童に求められる力をつける取り組みを期待している。 ・言語能力の向上を図る取り組みを今後も進めたい。 ・すべての学習の原点は国語である。母国語を軸に他の教科への学力向上を期待している。 ・読書活動の取り組み強化を望む。 ・公開授業時に子どもたちが素敵な目をして授業に参加していた。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3				
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4	3: 保護者による授業評価において「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」とアンケートで回答した割合が80%以上			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4	2: 保護者による授業評価において「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」とアンケートで回答した割合が60%以上			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	3				
		校内研究や読書活動の充実を通して、児童の言語能力の向上を図る取り組みを行う。	3	1: 保護者による授業評価において「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」とアンケートで回答した割合が60%未満			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のまきまりなどを守ろうとする意識を高める。	3	4: 保護者アンケートによる「基本的なしつけや子供たちの問題に対する対応」への満足度が90%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの連携を密に行い、児童理解とその対応に取り組んだ。 ・いじめ対策委員会や情報会を通して互いに情報を共有して、学年・学級関係なく全教職員で対応を図った。 ・学年・学級であいさつ運動を行っているので、児童会を中心に取り組み、浸透させる。 ・平成30年に実施される「特別な教科 道徳」に向けて、道徳教育の研修を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に全教師が向かい合おうという姿勢がうかがわれる。児童の将来のためにも社会のルールを身につける取り組みを進めたい。 ・保護者、家庭、地域の協力を巻き込んで、これからもお願いしたい。 ・学校、各クラスのコミュニケーションの充実が必要。保護者を含めさらなる進展を期待する。 ・各家庭の多種多様な考え方やスタイルに寛容さを見いだす必要はあるが、ルールやまきまり、道徳的指導はこれまで以上に重要かと思う。 ・学校に行く元気よく挨拶をしてくれる。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3				
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4	3: 保護者アンケートによる「基本的なしつけや子供たちの問題に対する対応」への満足度が80%以上			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4	2: 保護者アンケートによる「基本的なしつけや子供たちの問題に対する対応」への満足度が60%以上			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	3				
		生活指導における「あいさつ」「時間を守る」「話をしっかり聞く」「片付け」のための取り組みを実施する。	4	1: 保護者アンケートによる「基本的なしつけや子供たちの問題に対する対応」への満足度が60%未満			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4	4: 児童の生活調査で「健康や生活習慣に気を付けている」の割合が、90%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ・給食ニュースが食育の効果を上げている。また、オリハラ給食なども好評である。今後も、各学年、計画的に食育指導を栄養士とともに実践していく。 ・体育の時間に体力向上を図る縄跳び運動を全学年実践する。また、朝や休憩の時間等に、体力を向上させる取り組みを計画、実施していく。 ・休み時間を確保し、外遊びを推奨していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の規則正しい生活態度が基礎を作ると思う。今後も生活習慣に気を付けていきたい。 ・休み時間に校庭で一緒に走る先生方の姿を見かける。ありがたい。 ・純粋に遊ぶことが難しい環境や社会になったと思う。遊びから発展する向上心を促すことが求められると考える。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」それに「ラジオ体操」もあると更によいと思う。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4	3: 児童の生活調査で「健康や生活習慣に気を付けている」の割合が、80%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいつつ「食育」を推進する。	3				
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4	2: 児童の生活調査で「健康や生活習慣に気を付けている」の割合が、60%以上			
		各学期毎に長縄・短縄を使った、日常の運動量を図る取り組みを実施する。	4	1: 児童の生活調査で「健康や生活習慣に気を付けている」の割合が、60%未満			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4	4: 保護者による授業評価において「子供たちの学習活動が充実している」とアンケートで回答した割合が90%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、保護者による授業評価を取り、その結果と改善策をまとめて保護者に通知している。 ・管理職の授業観察時や研修による授業実践を互いに公開して授業を見合い、指導力の向上を図ってきた。 ・OJTを充実させるため、主任教諭が若手教諭に助言・支援を行う時間を確保する。 ・ICT機器を活用した授業を充実させるためにICTの環境改善を検討していく。また、ICTの利用の仕方を研修する場、意識を高める場を設置していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の教育の努力する姿勢が同われる。授業公開などにより外部との交流が更に深まることを期待する。 ・研究発表の努力、成果が先生方の授業力向上に繋がる。それが学力向上にも貢献すると考える。 ・今年度は校内の研究授業も多く、それ以外の授業公開は難儀の上、ICT機器を使い回すことも難しいと思う。 ・教員のご尽力がうかがえる。研究発表も長期の努力が実り素晴らしい。今後も継続して取り組んでほしい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4	3: 保護者による授業評価において「子供たちの学習活動が充実している」とアンケートで回答した割合が80%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	3	2: 保護者による授業評価において「子供たちの学習活動が充実している」とアンケートで回答した割合が60%以上			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	3				
		校内の研究授業以外にも、授業を公開する機会を作り、自らの授業力向上に生かす。	3	1: 保護者による授業評価において「子供たちの学習活動が充実している」とアンケートで回答した割合が60%未満			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりたい。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4	4: 保護者アンケートによる「情報の発信や教育活動の説明」への満足度が90%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や生活科を通して、地域の人との関係が増え、広がっている。 ・ホームページを頻りに更新し、学校・学年の教育活動の様子を知らせることができた。 ・地域との会議の報告を行い、全教職員が共通理解できるようにする。 ・家庭学習の取り組み指標を全家庭に周知して、協力の基に家庭学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域的に学校への理解が高い。また、相互協力もある理想的な環境が整っている。 ・地域と学校・児童との交流が、学習にも落ち着きで影響を与えている。家庭学習習慣のさらなる充実を期待している。 ・地域の行事に先生方や子供たちがいっぱい参加してくれる。 ・盆踊りに見られるように子供たちが積極的に地域に溶け込んでいく取り組みが大切だと考える。 ・反省のあったところは来年度によりよくお願いしたい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4	3: 保護者アンケートによる「情報の発信や教育活動の説明」への満足度が80%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4				
		地域の方を含めた防災活動を実施する上での組織・役割分担を明確にする。	3	2: 保護者アンケートによる「情報の発信や教育活動の説明」への満足度が60%以上			
		家庭学習の習慣を身に付けるため、各家庭が「学年×10分」の家庭学習に取り組むよう働きかけた。	3	1: 保護者アンケートによる「情報の発信や教育活動の説明」への満足度が60%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。